



7つの習慣

副会長 飯塚弘志

去る11月22日、北海道医師会創立50周年の種々の記念行事を無事終えることができた。

一口に50年と言っても、思えば長い歴史である。先人の個々の努力が、この歴史を創ったのであり、歴史が自然にできたものではない。これに思いを至すとき、頭の下がる思いがする。

しかし、一方50年という長い期間は、好むと好まざるとに拘らず、ある種の制度疲労をもたらすことも事実である。

政治の世界においても、55年体制は崩壊し、わが国の政党政治も乱れに乱れ、それぞれの立脚点すらはっきりしない有様。イデオロギー対立の時代ではなくなった。

経済の世界も混沌としている。ケインズ理論もはや通用せず、景気回復の方策も分からず、模索している状態である。

もはやnecrosisの状況である。これも時間という作用がなせる術かも知れない。

わが医師会組織も、前号の「指標」で吉田会長が書いているように、「初心にかえる」ことが必要であり、初心にかえて、その在り方を見つめ直すことが必要であろう。

変わらずに生き残るためには、変わらなければならないのである。

「7つの習慣」という本がある。

ビジネスを成功させるためには「7つの習慣」が重要らしい。

第1の習慣 主体性を発揮する。

確かに主体性のない組織は発展しない。それは単なる烏合の衆であり、単なる共同体にすぎない。機能体として働かなければならないであろう。

第2の習慣 目的をもって始める。

目的のない組織は組織とは言えない。共通の目的をもち、それぞれが深く関わり合い活動してこ

そシステムと言えるのである。

第3の習慣 重要事項を優先する。

情報の氾濫している世界において、何を取捨選択をするか、きわめて大事である。その結果、あれもこれも行うのではなく、優先順位をつけ事にあたっていくことが重要である。

第4の習慣 WinWinを考える。

勝負の世界では勝つか負けるかはっきりさせなければならぬ。勝つものがいれば、必ず負けるものがある。しかし組織においては、みんながWinでなければならない。みんながメリットを共有できなければならない。

第5の習慣 理解してから理解される。

ともすると相手を理解しようとしなくて、相手が理解してくれないと嘆く場合が多い。

確かに相手を理解しようと努力して、初めて相手から理解されるものであろう。

第6の習慣 相乗効果を発揮する。

物事はなかなか成就し難い。遅々として進まない。効率性が大事である。 $3 + 3 = 6$ であるが、 $3 \times 3 = 9$ となる。

第7の習慣 刃を研ぐ。

ボロボロの刃では何も切れない。つねに刃を研いでおくことが必要であろう。単的に表現すればそれは創造性、革新性といえるのかもしれない。

以上私なりに解釈してみたが、自己責任、目的志向、自己管理、コミュニケーション、創造性といったものであろう。

立派なことを口にしても実行しなければ意味がない。「初心にかえる」ことが大切であり、初心にかえて「医師会のあり方」を見直すことも必要であろう。

参考 スティーブン・R・コヴィー：7つの習慣。1997年。